

大阪は「まち」がほんまにおもしろい

新田開発に始まり前代未聞の地盤改良に成功したまち ～驚きの2メートル盛り土プロジェクトと造形の新しい息吹～

元禄時代以降、大阪湾に流れる幾筋もの河川の川口でさかんに新田開発が行われました。港区ではほとんどが町人の請負いによる開発で、開発者の名前が今も地名に残っています。そして近代の築港開発による土地づくり。問題は地盤沈下でしたが、港区では世界的に類のない方法でそれを克服し、現代的な港湾都市を出現させました。



① 朝潮橋

戦前の「大大阪(大正14年の市域拡大による大阪)地図」を見ると、安治川と三十軒堀川を結んで今の八幡屋公園のそばを通る井路川(いじかわ)が見えます。その井路川に朝潮橋が架かっていました。

② 全区約2メートルの嵩上げ (港地区土地区画整理事業)

港区は昭和初期から、地下水のくみ上げによる地盤沈下に悩まされました。その上、第二次世界大戦で市内最大の被害を受け、土地は荒廃を極めました。そこで、昭和21年(1946)、区内のほとんど全域の土地を盛り土して嵩上げするという前代未聞のプロジェクトがスタートしたのです。強い反対もありましたが、ジェーン台風などで大きな被害がその後も続出したことで、区民をあげての大作が進みました。安治川、三十間堀川、天保山運河を浚渫した大量の土砂を盛り土に活用し、同時に大阪港の大改修を行いました。プロジェクトは20年後に完了し、いまの港区ができあがったのです。

③ 唯称寺

対岸にJRの安治川口駅が見える石田1丁目目印は、区画整理事業で安治川が拡幅された場所ですが、そこに湊屋町がありました。250年前に湊屋吉左衛門が新田開発した土地が再び川の底に沈んでしまったのです。そこにあった寺院が唯称寺。その門前には「松の鼻の渡し」がありました。ここは、慶応4年(1868)、鳥羽伏見の戦いで指揮をとっていた将軍徳川慶喜が大坂城を脱出して海路江戸へ逃げようとしたとき、天保山に停泊していた軍艦へ向かう途中で休息した寺だと言われています。慶喜は松の鼻の渡船に乗って天保山へ向かったのでしょうか。唯称寺は、安治川拡幅の時、現在の夕凧に移転しています。昔、ここに流れていた井路川に架かっていた橋が夕凧橋です。

④ 三先天満宮

このあたりの新田には尻無川の水が農業に使われていました。その水を配水する樋(とい)が3本並んでいたところが三ツ樋町(みつひちょう)で、その先の場所が三先です。この天満宮は、池田屋大吉が新田開発の成功を祈願して勧請されたものです(天保6年1835)。菅原大神、住吉大神、稲荷大神を祀っています。つまり、知恵と水運と豊作の神に頼ったわけですが、無事、池田新田は完成しました。末社に「寝牛社」がありますが、牛の石を煎じて飲むと眼病に効くというので、いまや頭と首がありません。三先天満宮は、嵩上げ工事のとき少し移動して今の場所になりました。

⑤ 新田開発

港区の地名は新田開発を手掛けた町人の名前が、今でも残っています。市岡与左衛門、田中又兵衛、石田三右衛門、八幡屋忠兵衛、福崎孫四郎などです。新田は検地をうけて石高が決まり、年貢以外はすべて開発者のものになりました。通常、小作人が開発者から土地を借りて耕作し、下作米を所有者に納めました。

⑥ 池島公園 女神像

港地区土地区画整理事業を記念して昭和55年(1980)に大阪市によって「勝利の女神像」が建てられました。プロジェクトは昭和42年(1967)に完成していますが、消えつつある記憶をとどめるためには貴重なモニユメントです。

⑦ 八幡屋公園 (大阪市中央体育館・大阪プール)

大正12年(1923)に12ヘクタールの都市公園として建設され開園しました。戦後に大阪市電の港車庫となり、その後、市営地下鉄港検査場となり、平成9年(1997)、「なみはや国体」の時に大手前にあった大阪市中央体育館を移設し、同時に扇町にあった大阪プールも移しました。体育館メインアリーナは1万人収容、プールには3500人が収容できます。体育館は外観が小高い自然の山(グリーンヒル)になった珍しい建物です。港区の新しい造形をつくっています。

⑧ 千舟橋と 天保山ジャンクション

千舟橋から、阪神高速の湾岸線と大阪港線を結ぶジャンクションと天保山出入口が絡まる2つの大きなループが見えます。都市高速道路でこれほど複雑で美しい造形はほかに見られないのではないのでしょうか。さらに、北の方向にはループの間からユニバーサルスタジアム・ジャパンの南面が見え、周辺のホテル群が見えます。これも港区の新しい造形です。

⑨ 天保山

天保2年(1831)、安治川の河口を浚渫した土砂を積み上げてできた人工の山。当時は20メートルほどあったそうですが、幕末に大砲を設置するために山を削り、地盤沈下もあって現在は標高4.53メートルで、国土地理院発行の地形図に山名のある山の中では日本一低く、山頂には二等三角点もあります。昔から、釣りに夕涼みに船遊びに行楽のスポットでした。



【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】 大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内)「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または「大阪あそ歩」でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。